

第155回 医療技術者研修会

コロナ禍であらためて考えるつながりの大切さ
— つながり不足は深刻な健康リスクである —

講師：村山 洋史 先生

東京都健康長寿医療センター研究所

社会参加と地域保健研究チーム・研究副部長（テーマリーダー）

主催 一般財団法人東京保健会 病体生理研究所

【講演要旨】

私たちの健康は、運動や食事など、日常の行動に大きく左右されます。その行動は、私たちが持っている人や社会とのつながりを通し、知らず知らずのうちに周囲の人々から影響を受けています。こうしたつながりをうまく活かそうというのが最近の健康づくりの流れです。しかし、コロナ禍では私たちはこれまでのつながりを持つことが難しくなり、孤立や孤独などの問題が引き起こされました。あらためてつながりの持つ意味を考えさせられたといえるでしょう。講演では、つながりが我々の健康にどう関係するかについて概観し、コロナ禍でのつながりの欠如がもたらした影響についてお話しします。

【講師略歴】

2009年東京大学大学院医学系研究科博士課程修了。東京大学高齢社会総合研究機構、ミシガン大学公衆衛生大学院を経て、2020年東京都健康長寿医療センター研究所・専門副部長。2021年より現職。2012年日本公衆衛生学会奨励賞、2015年公益財団法人長寿科学振興財団長寿科学賞、2020年日本疫学会奨励賞など受賞。専門は、公衆衛生学、老年学。人々のつながりや地域の文化・風土が健康に及ぼす影響に関する研究、孤独・孤立に関する研究に従事している。

【関連著書】

- ・ 村山洋史. 「つながり」と健康格差：なぜ夫と別れても妻は変わらず健康なのか. 東京, ポプラ社, 2018.
- ・ 村山洋史, 他. 「労働市場・雇用政策と健康 (pp. 189-259)」 「なぜいま社会疫学なのか (pp. 337-351)」. 社会疫学 (高尾総司, 藤原武男, 近藤尚己, 監訳). 東京, 大修館書店, 2017.
- ・ Murayama H, Okubo R, Tabuchi T. Increase in social isolation during the COVID-19 pandemic and its association with mental health: Findings from the JACSIS 2020 study. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2021; 18(16): 8238.

【所属学会等】

日本公衆衛生学会、日本疫学会、日本老年医学会、アメリカ老年学会、等

【日時】2022年 3月 3日（木）午後6時30分～8時30分

【参加費】無料 【定員】100名（接続数）Webオンラインでの参加のみとなります

申し込み方法

- 1、勤務先・職種・氏名（フリガナ）をもれなく記入のうえ、研修会の期日と開催回数を明記し、メール(seminar@byotai.or.jp)にてお申し込みください。（記入もれがある場合、返答できません。あらかじめご了承ください。）
- 2、申込者へは順次、受講申込への返答をメールで送付いたします。
- 3、勤務先ごとでまとめて、お申し込みください。同一施設で複数名申し込みの場合は施設視聴をお勧めします。

*定員到達後の申込者へは「締切済」通知をメールで送付します。先着順で締め切ります。あらかじめご了承ください。

注記：本財団は個人情報保護法を遵守し、いただいた情報は、本研修会に係る受付・運営のみに利用いたします。申込の内容に関する照会・修正等につきましては下記「医療技術者研修企画係」へご連絡をお願いいたします。

〒173-0032 東京都板橋区大谷口上町 26-2 TEL:03-3956-4120

一般財団法人東京保健会 病体生理研究所 医療技術者研修企画係